

ヒューマンメディア財団が取り組む 地域情報化活動



ヒューマンメディア財団のご紹介

ご存じとは思いますが・・・。

- 名称 : (財)九州ヒューマンメディア創造センター
- 出捐 : 北九州市、地元財界
- 目的 : ICTやマルチメディアを活用して、
「人+IT=いい社会」の実現を目指す。

ICT推進室では・・・

- ・市内におけるICT研究開発やプロジェクトの活性化
- ・ICT研究開発と地域との関係強化、そして地域情報化
できれば・・・その成果を還元！！

昨年の活動

ネットワークを活用して、地域を活性化したい。

- ・九州における幅広いネットワーク
- ・JGN2や地域の公共ネットワークを活用した取り組み

九州情報通信連携推進協議会(KIAI)への積極的な参加

- ・佐賀総体映像配信事業
- ・設立総会・シンポジウムの開催
- ・JGN2を活用した遠隔交流事業の展開



KIAIへの期待

市内はもちろん、多様な団体との連携により、活動に幅

「あれ、やりたい」というときの知恵袋、そして仲間づくり

魅力的な「九州」づくりこそ、地域の活性化のキー

人材育成

利活用促進

研究開発

北九州市の
外郭団体
としての悲哀

北九州市の
外郭団体
の活力に！！

北九州ICTインテリジェントエリア実験とは

街中で、ICTを活用した実証実験を展開！！

1 市街地を実験フィールドとして活用

- ・これからのユビキタスネットワーク社会に向けて、製品開発に必要な街中の実験スペースを提供

2 PBLと連携して実施

- ・先導的ITスペシャリスト育成推進プログラムの拠点校である九州工業大学大学院のPBLと連携し、人材育成も推進

3 産学官で連携して実施

- ・北九州商工会議所や九州インターネットプロジェクト等産学官連携の下、展開

北九州インテリジェントエリア実験

ここを見て！！ ～平成19年度は無線LANを屋外で構築～



- 市街地での使い勝手を考えて！
マルチホップ技術を活用して
市街地に無線LANを構築
- 企業に魅力的な実験プロジェクト!!
NEC通信システムさんから
マルチホップルータ提供
- 市民に役立つアプリを提案!!!
学生の柔軟な頭脳でアプリを
検討

強力な実施体制

主催：ヒューマンメディア財団、北九州市、九州工業大学大学院

協力：北九州ICTインテリジェントエリア実験検討委員会

(産) NEC通信システム、九州電力、ネットワーク応用技術研究所、富士通九州ネットワークテクノロジーズ、日立製作所、日本テレコムインフォメーションサービス、日本統計センター

(学) 九州工業大学大学院、北九州市立大学

(官) ヒューマンメディア財団、北九州市

(行政関係団体) 北九州商工会議所、九州経済連合会、北九州情報通信革新技術推進会議、九州インターネットプロジェクト

後援：総務省九州総合通信局

アプリケーション

ユーザーの位置情報を、アクセスポイントから補足する 市街地情報提供サービス

The screenshot shows a web browser window displaying a service for providing city information. The interface is divided into several sections:

- 周辺マップ (Surrounding Map):** A map of the Uomachi area with several red circles highlighting shop icons. An arrow points from the text "マップへもどる" (Return to map) to the map area.
- 店舗広告スペース (Shop Advertisement Space):** A sidebar on the right containing a list of nearby spots. The first two items are "ベース1" and "ベース2", both with camera icons and the text "カメラ設置してます。カメラを見てみましょう。" (Camera is installed. Please look at the camera). The third item is "au shop" with the au logo and the text "au shopです。" (It is an au shop). Red circles highlight these items, and an arrow points from the text "店舗広告" (Shop advertisement) to the au shop entry.
- カメラへのリンク (Link to Camera):** A label pointing to the camera icons in the spot list.
- 店舗アイコン (Shop Icon):** A label pointing to the red circles on the map.
- 店舗広告 (Shop Advertisement):** A label pointing to the au shop advertisement in the spot list.
- トップへのリンク (Link to Top):** A label pointing to the "マップへもどる" link.

At the bottom right of the page, there is a footer: "α Version Dec 2007 © PBL2007".

実験風景



報道発表

無線使いいネット通信

学生らと商店街で性能実験

北九州の財団

北九州市が出資する財団法人の九州ヒューマンメディア創造センターは19日、同市や九州工業大学大学院と共同で、屋外でも小型パ

ソコンなどの端末からインターネットに接続できる「マルチホップ無線ネットワーク」の性能実験を小倉北区の小倉中央商店街で始

めた。20日も行い、2月末までに検証結果をまとめ、本格導入に向けて市や商店街にアピールしていく。実験には財団職員や

平成20年1月20日(日)
読売新聞 朝刊 地域面



商店街で無線基地局間の通信速度を調べる九工大の大学院生ら

同無線は、パソコンと無線基地局を無線でつなぎ、基地局間も無線で結んでインターネットに接続する技術。配線が難しい場所でも

設置でき、ネットワークの一部に障害が起きても自動的に代替経路を確保できるという。実験には財団職員や大の大学院生ら26人加。商店街の13か所に局を設置し、基地局間の通信速度を測定した。自動閉ドアの周波数の干渉などで速度が不安定な場所もあったが、おおむねADSL(非対称デジタル加入者線)並みの通信速度が確保できたという。20日は実際に買い物客らにインターネット通信を体験してもらった。

ネット環境向上へ 「マルチホップ」 商店街で実験

九工大など

北九州市が出資する財団法人「九州ヒューマンメディア創造センター」と九州工業大学大学院などは20日、小倉北区の小倉中央商店街で、無線を使ってインターネットに接続し、店舗情報などを入手するサービスの実証実験を行った。

この技術は「マルチホップ無線技術」と呼ばれる。パソコンと無線基地局を無線で接続、基地局間は無線で通信するため、有線の無線LAN(構内通信網)に比べ、基地局間の配線などが手間いらずで経費もかからない利点がある。整備が進めばネットの利用環境の向上につながるという。



パソコンで店舗情報を確認する実験関係者ら

実験では、基地局を十ニカ所設置。同大学院生らが商店街内を移動しながら小型パソコンで実験用の商店街ホームページにアクセスし周辺の店舗情報を確認するとともに、アクセス履歴で客役の院生がどう移動したかも把握した。同センターは二月までに実験結果をまとめ、新たな商店街サービスの提案する考えだ。

平成20年1月22日(火)
西日本新聞 朝刊 地域面



実験結果

1 本当は5GHz帯でやいたかった!!

- ・ 2.4GHz帯では、街中は、まさに無法地帯。

2 必要は発明の母??

- ・ 不安定な区間は、設置位置、チャンネル、指向性アンテナを活用するなど、改善策を実施
- ・ やはり実証こそ命!! →**学生は大きく成長**
- ・ 結果的には3~4ホップで何とか数Mbpsを確保

3 市民もインターネット接続やアプリケーションを体験

- ・ 割りと好意的! ?

今後の展開

- **無線LANとしては、5GHz帯を活用し、事業化に向けた取り組みを進めたい。**
- **北九州ICTインテリジェントエリア実験は、まさに、製品開発の要である実証フィールドを提供**
実証実験は、ICTの可能性を可視化して、ICTニーズを喚起するという意味も大きい、そして人材も育成。
・・・まさに「地域情報化」！！・・・
- **市内のICT研究開発と、こうした裾野ともいえる実証実験、そしてKIAIとの連携、を車の両輪として、今後も地域情報化活動を推進する！！**